

寄稿

人口減少社会と 地方都市の活力再生

180

株式会社さくら都市総合研究所

主 席 清水 秀幸
研究員



19 縮小する社会と地方
都市の将来像

なれの果てであり、格差社会の顕在化による社会の疲弊と空気の淀み以外の何物でもないのである。

一方で、経済市場の大きな変革の中でまちはどう変わるのか。それは商業地の一極集中と利便性豊かな住宅群への人々の移動、そしてアミューズメント性に満ちたまちの造形と観光資源のダイナミズムによる修景の継承である。そしてまた、A

も国民が、市民が明るい未来の実現に近づくためには、将来の目標―目指すべき将来像―を明瞭に共有し、その実現に向かって基本的戦略（ビジョン）を構築し、さらにそれを達成しようとする具体的な行動が求められるのである。そう考えると、今に生きる私達のアイデンティティは大変重要になってくると考えるを得ない。

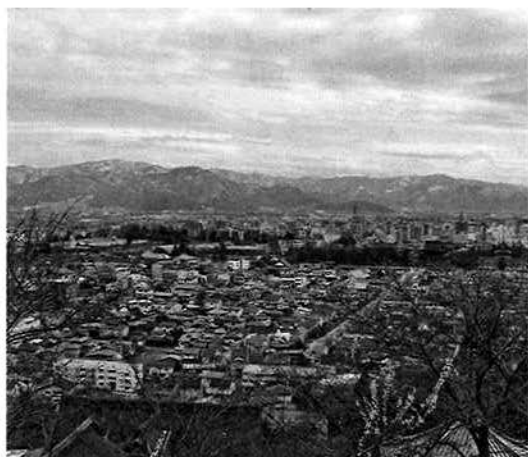
.....

そうした場合、私達はいもしもこの時代の変化に対応することなく現状の流れに身を任せ、衰退するのを待ち、それを受け入れるより仕方がないのである。衰退の必然とは、

Iの更なる進展は製造業就業者を減少させ、サービス就業者を増大させてテレワークどころかワーケーションの時代を迎えることで、事務所ビルも無用の長物となる日が来るのではないかと筆者は思うのである。

経済規模の縮小による国民（市民）一人ひとりの暮らしの貧しさの

このような近未来の到来を前に、いかなる状況下に置かれようと



変わりゆく都市 その明るい未来のために、目指すべき将来像と、実現のための具体的な行動が必要となる

清水 秀幸氏（しみず ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商會役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在、同研究所社長。